

氏名(本籍)	白坂 ^{しらさか} 蕃 ^{しげる} (東京都)
学位の種類	理学博士
学位記番号	博乙第45号
学位授与年月日	昭和55年10月31日
学位授与の要件	学位規則第5条第2項該当
審査研究科	地球科学研究科
学位論文題目	The Development and Transformation of Tourist Settlements on the Heavy-Snowy Regions of Japan —With Emphasis on Ski Settlements —(深雪山地における観光集落の形成とその変貌—スキー場集落を中心として—)
主査	筑波大学教授 理学博士 山本正三
副査	筑波大学教授 理学博士 正井泰夫
副査	筑波大学教授 理学博士 奥野隆史
副査	筑波大学教授 理学博士 吉野正敏

論文の要旨

本論文は観光集落の一類型、深雪地帯におけるスキー場をもつ集落をとりあげ、地域の全体構造の中で、その形成の諸条件と発展過程を考察し、このタイプの観光集落がいかなる場所に、いかなる諸条件のもとに形成されてきたかを明らかにしようとしたものである。

研究方法としては、スキー観光集落を2つの系統に類別し、それらの代表的事例について、その形成過程を集落の景観と社会構造の両側面から考察している。具体的な研究対象地域としては、長野県野沢温泉と志賀高原を選定したが、日本の他の主要なスキー集落についても実態調査を行ない、さらにヨーロッパのスキー集落についても比較検討を加えた。

わが国のスキー場の分布は年最深積雪量が50cm以上の地域で、しかも100日以上滑走可能期間をもつ地域に著しい集中がみられる。一方、スキー集落の類型をみると、農林業集落と温泉集落がスキー場の立地によってスキー集落を形成した「既存集落移行型スキー集落」と、地元住民の移住または外部資本によるスキー場の開発により新しく集落が形成された「新集落発生型スキー集落」に分類される。

既存集落移行型スキー集落の典型は野沢温泉であり、白馬村八方、スイスのツェルマットなどもこの類型に相当する。また新集落発生型のスキー集落の典型は志賀高原であり、乗鞍高原やフランスのクールシュベルなどもこの類型に属する。

このような基本的な2つのタイプのスキー集落の形成について、その発展過程土地利用、農林業の生産構造、集落の社会構造の変貌過程を検討して、これらのスキー集落が成立するためのいくつかの共通の条件が明らかになった。

スキー集落形成の基礎条件として、地形面および積雪の量と質という自然条件の適性があげられる。スキー場として特に恵まれた自然条件の存在は、新しくスキー集落が形成される不可欠な条件であった。スキーヤーが入り込み易い交通条件が整備されていることは、スキーヤーの市場が主として大都市であることから重要な条件となる。また宿泊地としてのスキー集落とスキー場間の距離、つまり近接性はスキー場の機能を高めることでスキー集落形成を促進する条件になっている。

スキー場の開発には地代の安い広大な土地が必要なことから、スキー場適地の土地所有形態がスキー集落形成にとって大きな関連要因となるが、部落有林野、村有地、国有地などの公有林野の存在が有利な条件となり、このような林野の利用がこれまで進んでいなかった場合にはさらに好条件となる。また周年観光機能の存在は多様な階層の宿泊機能の存在とならんで重要な条件であるが、わが国では特に温泉の存在がスキー集落の形成と発展に重要な要因になっている。深雪高冷地においては、民宿経営が可能となる既存集落の存在がスキー場発展の要因の一つになっている。

以上に指摘された諸条件が充足され、地域構造を形成するとき、スキー集落が成立し、発展することが明らかになった。

審 査 の 要 旨

観光集落の形成は第2次世界大戦後世界的に注目されている著しい現象であり、その一つの類型であるスキー集落についても種々の観点から多くの研究が行われてきた。著者はスキー集落の形成の問題について、とくに中央日本の深雪山地二つの典型的な事例をとりあげ、詳細な現地調査にもとずいた検討を行なった。その結果、いわゆる過疎化が一般的に進行しているわが国の山地帯・亜高山帯の農山村にあって、農林業以外の新しい第3次産業の発展を基礎にして、人口を増加させている集落、および従来の非居住空間に形成された新しい集落について地域構造分析の観点からその形成条件を解明するという見事な成果を著者はあげることができた。これは適用範囲の広い成果であり、著者のすぐれた着想と細密な現地調査の努力とは高く評価されるものである。

よって、著者は理学博士の学位を受けるに十分な資格を有するものと認める。